

日本語

プロ  
シ ヨ ナ フ エ ッ  
ヨ ナ ル ツ

1358

空き家

いじめ

ポ  
ー  
ト  
フ  
オ  
リ  
オ

2020年 冬

ク  
ラ  
ス

# 目次

## 空き家

グループメンバー紹介.....	3
プロジェクトの背景.....	4
プロジェクトのリサーチ.....	4
プロジェクトゴールと目標.....	5
活動内容と活動準備.....	5
写真と使った資料.....	6
感想.....	7

## いじめ

グループメンバー紹介.....	10
背景：「いじめ」の定義.....	11
リサーチ（パンフレットにも入れた）：いじめの影響.....	12
いじめのサイン.....	13
被害者を助ける方法.....	14
ゴールと目標.....	15
活動内容.....	16
感想.....	17
終わりに.....	19

# 空き家めろ！



# グループメンバー紹介

		
<p><b>ポーエン・ワイリー</b></p>	<p><b>フランシスコ・カルロ</b></p>	<p><b>前田優樹</b></p>
<p>UCSD の四年生で、専攻は国際言語学と日本学、副専攻は演劇学</p>	<p>UCSD の3年生、専攻は日本研究学</p>	<p>UCSD の二年生、専攻はコンピューターサイエンス、副専攻は日本学</p>
		
<p><b>中島未宙</b></p>	<p><b>チャオ・シャジュン</b></p>	<p><b>リン・チホ</b></p>
<p>UCSD の二年生で、専攻は国際ビジネス学科</p>	<p>UCSD の四年生で、専攻は日本研究学</p>	<p>UCSD の大学院生で、美術史を研究している。1960年代の中国の漫画に興味を持っている。</p>

# プロジェクトの背景

先学期、私たちのグループのメンバーは、空き家に関する研究を行った。私達はこのエッセンシャルクエスチョンを質問をすることから始めた。それは、「日本の空き家問題に対して、現在どのような対策を取られているか」だ。

現在の日本では「空き家問題」は注目されている。日本で8軒のうち1軒が空き家となっている。ほとんどの空き家の原因は「少子高齢化」や「核家族化」や家を使い捨てできるという思考を持つ社会のためだ。背景は少し異なるがサンディエゴにも「空き家問題」が起こっている。この空き家の原因は「差し押さえ」や「夏の別荘」だ。どこでも、空き家がある地域は地震が多い場合、空き家は周囲のコミュニティにとって危険だ。

空き家問題の影響もある。日本の例は、ゴミの不法投棄、悪臭などのご近所トラブルだ。その上に、「治安の悪化」や「老朽化による倒壊の危険性が増す」なのだ。サンディエゴの例は、ホームレス人口に弊害し、経済がだんだん悪くなっている。

## プロジェクトのリサーチ

空き家問題の原因は少子高齢化と空き家の所有者は空き家の管理や活用に関する情報や方法を知らないことだ。秋学期にした研究によると、日本政府が実施した空き家対策は三つある。第一は、空き家入居者への補助金で、政府は空き家に住みたい人に毎月四万円の補助金を与えている。二つ目の解決策は空き家バンクだ。空き家バンクとは空き家の活用に興味を持っている人と空き家の所有者を繋げるプラットフォームだ。このプラットフォームで、空き家はカフェやホテルなど収益物件になれば、活用ができる。最後は、2014年成立した「空き家等対策の推進に関する特別措置法」という法律だ。この法律によって、政府は空き家の所有者の個人情報を取り、空き家を適当に管理しない所有者を指導や勧告後、また状況が改善しないとき、命令を出すことができるようになった。



# プロジェクトゴールと目標

空き家問題は日本だけの問題だと思いがちだが、サンディエゴにも空き家があり、実際にサンディエゴ在住の人に損害を与えている。そのため、プロジェクトのゴールを「空き家はサンディエゴのコミュニティにどのような悪い影響があるかをしっかり理解してもらおう」にした。私たちが考えた目標は「サンディエゴにも空き家問題があることを伝えることや、参加者により身近なものとして捉えてもらうこと」だ。ワークショップを通して、具体的にサンディエゴにある「2次的住宅」はサンディエゴの人々にどのような不利益が生ずるかを教えることで、空き家問題の深刻性を伝えることができる。

## 活動内容と活動準備

活動準備：初めに、私達は日本とサンディエゴの空き家問題のリサーチを行った。サンディエゴのコミュニティにどう貢献できるか考えたあげく、私達とコラボすることにした。JSA主催のラングエーじテーブルをイベント場所と決めた後、私達は、プレゼンテーション用のボード作り、写真を集め、また、早押しゲームのカフトを作った。カフトのゲームの勝者のためのプライズの買い出しにも行った。サインインするためのフォームや、イベントのためのアンケートも作り、印刷した。カメラも用意し、イベントの広報をしに日本語クラスに話しに行ったり、フェイスブックでフライヤーを出したりした。

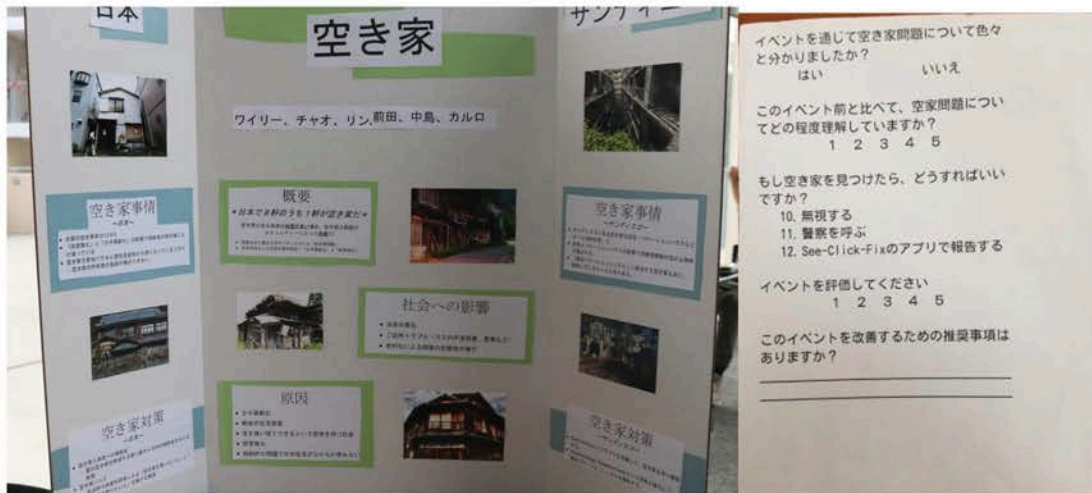
活動内容：今学期のイベントはJSAのラングエーじテーブルで空き家に関するプレゼンを行った。プレゼン後、前もって準備してあったディスカッション質問を使い、会話を参加者と進めた。イベント中、参加者にお菓子を提供した。時間制限のため、カフトが出来ない分、もっとディスカッションを深め、アンケートに答えてもらった。



# 写真



Copyright © AXA Life Insurance Co., Ltd. All Rights Reserved.



# 感想

リン：アンケートの結果によると、参加者は日本とアメリカの空き家問題を認識した。活動は成功だと言われるが、Kahoot でクイズをすることが出来なかったので、参加者はどの程度プレゼンテーションの内容を理解したかということを確認できなく、残念だったと思う。このイベントを準備する時、JSA の突然な要求やプロジェクターの使用料など思いがけないことがあった。将来このようなことがもう一度発生しないように、対象者の希望や機材を確認することを気にするべきだ。

前田：今学期のプロジェクトは大成功だったと思う。イベントを通して学んだ事がたくさんあった。初めて日本からの留学生と空き家について話したのでいい経験になった。私はこのプロジェクトのリーダーの担当だった。今学期は大学で初めてのグループプロジェクトのクラスを経験したので大切な経験ができた。グループの仕事分担や担当分担を学んだ。この経験は将来の仕事で使えるので、大学で練習ができる事は私にとってとても大切だ。それにグループメンバーとコラボレーションがきちんとできる事も学んだ。この経験を振り返って成長したい事はグループと一緒に計画を作れるようにする事やどのようにグループのゴールを達成するかをみんなと話し合っ決定する事だ。

チャオ：今回のグループワークについて、学んだことが多かった。例えば、メンバーたちと信頼関係を築くことだ。成功のイベントはグループメンバーと協力しなければならぬ。グループメンバーとイベントをしている時、自分が締め切り前に仕事ができなければ、メンバーと相談し、一緒に他の方法を考えれば、いい信頼関係を築けると思った。それから、イベントのために、JSA などの関係組織との連絡方法を学んだ。私はイベントの広報担当だったので、イベントについて他の日本語のクラスの先生たちに連絡する時、敬語の使い方を勉強した。グループで行ったイベントでは様々なことがあったが、メンバーたちの協力と支援の下に、最後まで円滑に進行したのはよかったと思う。

ワイリー：イベントはとてもうまくいったと思う。イベントが始まった時、言語テーブルに来た人々は混乱していたようだったが、私たちが行っていることに興味がありそうだった。皆が素晴らしく、良い聴衆だった。プレゼンテーションをした時、皆が発言に興味を持っているように見えた。参加者は質問をしてくれて、同様に意見を述べてくれた。抱えていた最大の問題は、イベントの数日前に JSA からイベント全体で約 20 分しか与えられないと告げられたことだ。そのため、イベントの時間が短くなった。次回は、より多くの時間と活動を計画するほうがいいと思う。私達は UCSD の学生に空き



家問題について伝え、全員が問題に興味を持つという目標を達成したと思う。全員からのフィードバックが得られたので、次の四半期のイベントの改善に取り組むこともできる。皆がイベント前に知っていたことと比較して、空き家についてより多くの知識を持ってイベントを去ったようだった。

中島：今回のイベントは成功だったと思う。急な時間制限やプロジェクターがないにも関わらず、プレゼンとディスカッションがスムーズだった。プレゼン中、皆興味を持って話を聞いてくれた。また、ディスカッションにも来てくれた皆が貢献していた。イベント当日はちょっと混乱していたけど、JSAの人たちが指揮してくれたおかげで時間通りに終わった。今度は、もっと早めに広報をしたり、JSAと話をつけたりした方がいいと思う。

カルロ：グループプロジェクトを通して、サンディエゴと日本の空き家問題の理解を深めることができた。空き家ワークショップに参加してくれた日本人の留学生の話聞き、空き家問題は深刻な社会問題であることを改めて痛感した。ワークショップを企画するのが大変だったが、企画を立てる上で必要なものは何かを身をもって、学ぶことができたので、やってよかったと思う。

# 小学生のいじめの対策



# グループメンバー紹介

<p><b>野崎美紅</b> 広報</p>  <p><b>専攻：国際経済</b> <b>副専攻：ビジネス</b></p>	<p><b>ゴンザレス愛梨</b> リーダー</p>  <p><b>専攻：数学</b> <b>副専攻：日本学、教育学</b></p>	<p><b>リン</b> 活動デザイン</p>  <p><b>専攻：コンピュータ工学</b></p>	<p><b>シー・チェンル</b> 活動デザイン</p>  <p><b>専攻：日本学</b></p>
<p><b>ジュリア・サン</b> 撮影者</p>  <p><b>専攻：生物</b> <b>副専攻：日本学、心理学</b></p>	<p><b>キアナ・ロラチ</b> 編集者</p>  <p><b>専攻：日本学</b></p>	<p><b>ヤン・ジャクリーン</b> リーダー</p>  <p><b>専攻：日本学</b></p>	

# いじめとは？

いじめとは、他の人を心理的、あるいは物理的に傷つけることである。相手が怖い思いや嫌な思いをしたり、自分は役立たずであると感じた時点で、それはいじめになる。



いじめかどうかを見破るコツ

## 1. いじめっ子の心理

- より力のある立場にいたい
- 相手に肉体的・心理的に苦痛を与えたい



## 2. いじめられた子の気持ち

- もし「いじめ」の受け手が、冗談などの行動から自分が仲間はずれにされていると感じた場合、自分がいじめの対象であると感じるかもしれない



文部科学省によるいじめの定義：

1. 自分より弱い者に対して一方的に、
2. 身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、
3. 相手が深刻な苦痛を感じているもの

# いじめの影響

～パンフレットにも入れた内容～

## 1. うつ病

- うつ病は、人の生活に多くの深刻な影響を与える可能性がある。いじめとうつ病の関係は他の問題にも及ぶ可能性がある（例：低い自己評価、不安、高い欠席率、体の病気）。



## 2. 社会不安

- いじめられた経験が心の傷になり、人と関わることに恐怖、不安感を抱く。特に同時代に人に強い恐怖感を覚え、人付き合いが苦手で、職場にも生きづらさを覚えている人は少なくない。

## 3. 摂食障害

- 学校でのいじめは若い年齢で始まり、体重が重い子供は仲間にいじめられる。同年齢の仲間からかいは、過食や体重増加などの問題を引き起こす可能性が高い。



## 4. 睡眠障害

- いじめられた子供は、いじめの経験を思い出すことがよくあるが、これは被害者が寝る前に起こることがよくある。その結果、被害者は睡眠障害、悪夢、さらには夜間恐怖症を抱えている。

## 5. 自己隔離

- 引きこもりの約10%の人はいじめをきっかけに不登校になり、引きこもりになっている。被害者がいじめられた経験を言いたがらないことも原因の一つだ。自分では隠しておきたいことであるし、言ったとしても周囲は「そんな昔の事を今さら言っても仕方がない」といった態度をとることが多く、さらに傷つくこともある。



# いじめのサイン

## 1. 家から出ない

- いじめられた子供たちは、いじめっ子を見て経験を繰り返すことを恐れる。その結果、人付き合いを避けるため、時々引きこもりになる。

## 2. 人とあまり話さない

- いじめられた子供たちは、周りの人が「あなたは弱すぎる」と言うだろうと思うので、自分の経験を思い出したくない。その結果、彼らは一人でいて、他の人と対話しないことを選択する。

## 3. 成績の悪化

- 被害者は精神的な健康に大きな影響を受ける。恐怖、憂鬱、不安が被害者の心を支配することが多く、仕事、学校、個人の目標に集中できなくなる。



## 4. 怪我

- いじめが引き起こされる痛みと苦しみを軽減するために、被害者は気を散らすことを選択する。多くの被害者が選ぶ方法の一つは、身体的痛みが精神の痛みから気を散らす可能性があると考えているため、自傷行為だ。

## 5. 睡眠時間の増減

- いじめられた子供たちは、一人でいる夜に痛みや経験について考える。その結果、彼らは眠りにつくのに苦労し、時々徹夜をして気を散らすことさえある。

## 6. 食欲の増減

- 恐怖、不安、うつは食欲を減退させる。いじめの被害者はこれらの精神症状を抱えているから、彼ら食事への欲求と食習慣が混乱する。



## 7. 気になる発言や冗談

- 言葉は刃のようなものであり、言葉による虐待は肉体的な虐待よりも有害だ。その結果、いじめっ子が被害者に言ったことは、消えることのない傷跡のように永遠に被害者の心中にとどまる。被害者は学校や職場で、そして個人的な生活の中でもそれらの言葉を覚えているだろう。

# 被害者を助ける方法

## 1. 話を聞いて、支えになること

- 真摯に話を聞いて、落ち着いて対応すること
- 感情的になってしまうと（例えば、いじめっ子に対して怒りを表すなど）、子供が恥ずかしく感じたり、罪の意識を持ってしまふかもしれない。
- 子供がこの状況をどうしたいのかを聞いて、そのアイデアが実現可能であるかについて考える。
- 子供の勇気を褒める。いじめは、ふざけや遊びをよそおったり、インターネット上やメールなど、大人の目に付きにくい場所や形で行われることが多い。いじめられた子供自身も、「心配されたくない」、「仕返しが怖い」という気持ちから、いじめを否定する心理が働く場合もある。子供が勇気を振り絞ってあなたに話をしてくれたことを褒めましょう。

## 2. 学校関係者に報告する

- 状況を調査や監視し、更なるいじめを防ぎ、被害者を守ることができる。

## 3. いじめっ子について

- いじめかいじめではないかの判断は、主に受け手の気持ちで決まる。傷つくものさしは人それぞれなので、軽い冗談のつもりでも、知らないうちにいじめの加害者になってしまっているかもしれない。しかし、どんなに「小さく」「些細なこと」でも、日々積み重なるいじめの影響は深刻だ。

加えて、いじめはどんなことがあっても正当化して良いものではないが、いじめっ子も劣等感や人間関係における不安などを抱えている場合が多く、心のケアを必要としているかもしれない。よって、いじめっ子を叱るだけではいじめはなくなる。

しかし、いじめられた人の前で「いじめっ子にもそれなりの理由がある」「その程度のことだ」、などといじめっ子をかばうような発言は良くない。勇気を出して話してくれた子供を傷つける。いじめという問題で被害者に非があることは100%ない。

# ゴールと目標

1. **ゴール**：小学生に「いじめ」と関わる情報を伝えることである。
  - いじめの悪い点を生徒と親に伝え、いじめに対して問題意識を高めることだ。
  - 違う角度からいじめの問題を考え、傍観者、被害者といじめっ子の状況を分析する。
  - いじめからの精神障害について説明し、「お互いに仲良くする」の重要性を強調する。
2. **目標**：サンディエゴの日本人コミュニティの小学生達にイベントを通していじめの予防方法や解決方法を紹介することである。そして、パンフレットを通して生徒達の親にいじめの情報や対策を提供する。





# 活動内容

活動準備：対象者はクジラ学園の16人の子供たちなので、イベントはクジラ学園のお昼休みに教室で開催した。しかし、その前に、多くのタスク準備を完了した。まず、芝居の台本、選択肢の絵カード、そしていじめに関する情報を含むパンフレットは作成した。次に、私たちはイベント前に許可を確認して学校に連絡し、芝居のリハーサルをして、子供のお菓子を買った。また、イベントの写真を撮る為、カメラも準備した。



活動内容：今回のイベントでビジュアルノベルのようなアクティビティの形式で開催した。最初の「芝居」は、いじめをテーマとしたストーリーを作り、私たちが演じた。次に、子供を含むインタラクティブなアクティビティを開催した。私たちは芝居を途中で止めて、子供たちに質問をして、次のアクションの選択肢を子供たちに提示した。選択肢の中から一つ子供に選んでもらって、彼らがストーリーを作っていく形となった。間違えた選択肢を選んだ生徒はゲームから外れ、最後まで残った生徒にはお菓子をあげた。最後は、子供たちと交流したメンバーの写真を撮り、テーマを要約し、教師にパンフレットと感謝の贈り物を与えた。



# 感想

予想よりイベントはスムーズに進行した。大きな問題が発生することなく、予定通り30分程度で終了した。生徒もいじめについて考える他、イベントの形式を楽しんでくれたようだったので、私たちとしてもとても意味のある時間を過ごすことができた。イベントは成功したと思う。

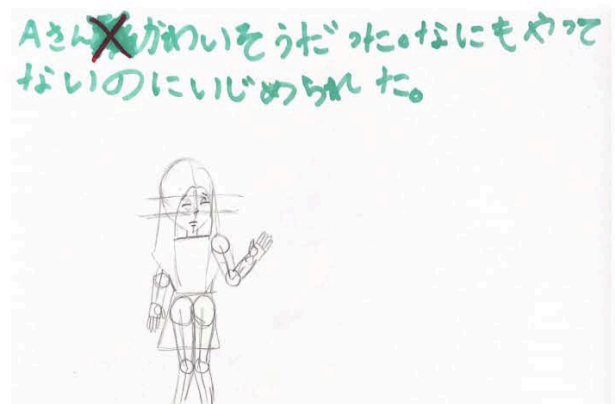
## 予想外だったこと：

1. 最終的に生徒は皆同じ選択肢を選んだので、当初予定していた「間違えた選択肢を選んだらアウト」というルールが適応されなくなり、みんなが「勝ち残った」。
2. 急遽生徒からもフィードバックを集めることになった。紙を配って、生徒に絵や文字で思ったことを表現してもらった。お菓子と書いた紙を交換することで、お菓子をあげたため、参加した全生徒からフィードバックを得ることに成功した。この点に関しては、非常に柔軟且つ効率的に対応することができたと思う。

## 反省点：

1. アンケートに答えてくれた人が現時点ではない。参加した保護者にもフィードバックの紙を配ればよかったかもしれない。

## 子供たちのフィードバック（絵）：



## 個人の感想：

1. 野崎：イベントは成功したと思う。生徒に提出してもらった絵やコメントを見ると、私たちが作ったストーリーといじめについて理解してくれたのではないかと思う。大人から直接フィードバックを得られなかったことは残念だが、くじら学園の生徒もイベントを楽しんでくれたようだったので良かった。補習校から返事が来なかったり、企画を変更する必要が度々出てきたりなど、イベントの企画は思ったより大変だったが、グループ全員で協力することでうまく実現することができたと思う。
2. サン：今回のイベントを通して、いじめの例と悪い点と関わる情報を小学生によく伝えることができたと思う。いじめが生み出す悪い影響はたくさんあるから、子供たちにいじめの精神的な障害について意識を高めることができた。また、子供たちにお互いに仲良くするという概念を進めた。子供たちに難しいコンセプトを暗示したが、私たちは子供たちが主要な定義と情報をきちんと理解していることに気づいた。子供たちはこの活動を楽しんでいるようで、そのような効果を継続するには、春学期に、より複雑なプロジェクトと一緒に取り組む必要があると思う。
3. シー：今回の活動から学んだことがある。全ての人のスキルとアイデアは大切だということを意識した。最初皆が「選択肢の絵を描きましょう」と提案した時、私は絵の必要性が分からなかった。しかし、選択肢の絵は、子供達が選択肢の内容が理解できなかった時に役立ったと思う。そして、反省点もある。私達は作ったアンケートのリンクをパンフレットに入れたが、まだ誰も答えてくれていない。当日、イベントに参加した先生達や親御さんたちに協力を依頼して、フィードバックを書いてもらったほうがいいと思う。将来の活動をする時、この点に注意しなければならない。
4. ヤン：イベントの企画をしている時、アクティビティの内容を書くのはちょっと心配した。もし、内容がつまらなかったら、子供達は参加しないだろう。また、内容が難しすぎると、子供達は理解できないと思う。だから、イベントをする時、私は驚かされた。全員子供達が参加して幸せそうにみえたから安心しました。そして、フィードバックによると、子供達は芝居の意味を理解しているようなのでイベントは良かったと思う。確かに子どもの親御さん達がフィードバックをくれなかったのは少し残念だったが子供が私達が彼らに教えたことを覚えていてくれれば、私達のイベントは成功したと思う。

5. ゴンザレス：子供たちからのフィードバックを見ると、このイベントは成功だったと思う。芝居の台本を子供達にわかりやすく書くのは難しかったけど、いじめの概念とそれが被害者に与える影響を子供達が理解できていた。楽しそうに参加していたのでインタラクティブな学習体験であったと思う。最後に、親御さん達にアンケートのリンクが含んであるパンフレットを配ったが、子供達と家で話合ったかわからない。しかし、数週間の準備の後、イベントは計画通りに進んだ。
6. キアナ：イベントは思ったより成功できたと思う。グループの皆も上手く努力して頑張った。芝居を演じていた時、子供達はワイワイと楽しんでいた。そして、子供のために描いた絵も皆が好きだったと思うので、嬉しかった。選択肢は少し難しかったかもしれないけど、子供達は一緒に頑張って全部の正解答えを選んだ。フィードバックに書いてくれたコメントと絵も面白かった。イベントの準備と思い出はいい経験になったと思う。
7. リン：今回のチームワークで、個人的に変わったことがある。私はもっと他の人の意見を聴けるようになった。私はもっとコラボレーションしやすい人になった、これはすごくいい変化だと思う。そして、いじめについていろいろ調べて、私はいじめに対する認識は深めた。子供達と接することはとても楽しかった。

## 終わりに

JAPN 135では秋学期に日本が課題先進国である社会問題を取り上げ、リサーチをした。今学期（冬）は、秋にリサーチをした問題の中から二つ、空き家といじめを選択し、これらに関する、日本人コミュニティに社会貢献ができるようなイベントを企画した。二つのグループに分かれて、空き家といじめ、それぞれについて約7週間準備をした。春学期には、今回の経験を活かしながら、両トピックについて新たなアプローチでまたイベントを企画し、開催したい。

